

議事録

名 称	高知カツオ県民会議 カツオ消費・漁業分科会（第8回）		
日 時	2018年4月26日 13:30～15:20	場 所	サニーマート 本社会議室
		作 成	事務局：サニーマート 眞鍋
資 料	議題、出席者リスト、漁業関連資料（水揚前年比）、食育関連資料（検討タタキ案）、高知城歴史博物館企画書、配布リーフレット（カツオメッセージ）、高知新聞関連記事（市場開放デー、日本遺産、シラスウナギ漁延長、		
出席者（敬称略）以下 21 名			
（サニーマート）中村、（高知かつお漁業協同組合）中田、松田、（明神丸）明神、（新生丸）松下、（明神水産）明神、（土佐魚類）森國、本山、（大熊）泉、平、（旭食品）福島、（高知工科大学）浜田、（石田祝稔事務所）山内、（高知県漁協協同組合）中元、（高知県漁業信用基金協会）佐治、（高知県水産振興部）田井野、福原、（高知新聞）福田、（情報発信分科会より）西野、（高知広告センター・県民会議事務局）奥代、（サニーマート・分科会事務局）眞鍋			
議題および意見 全議題において要点のみ記載			
<p>1. 開会にあたり</p> <ul style="list-style-type: none"> 座長より、カツオ県民会議も2年目に入り活動を形にしていくために各員の力添えをお願いする旨の挨拶があった。 <p>2. 直近のトピックス、活動についての報告（事務局より）</p> <ul style="list-style-type: none"> 幹事会、総会の活動について県民会議事務局奥代様より報告を頂いた。3月で一旦の年度終了となり、4月は予算と活動実績、本年度の計画に関する報告等が行われ、本年度の活動としては日本遺産の登録に向けた動きをとっていくことが決議された。これにあわせて記者会見を実施し、新聞等で広く紹介された。 高知新聞等記事より気になる記事について分科会事務局より報告を行った。個々の内容について、出席者からも感想を頂いた。 ※【・・・】が記事の見出し <p>【カツオで日本遺産を目指す取り組み】【黒潮町の課題】【土佐清水での宗田鰹】【県外客が多かった】</p> <p>【シラスウナギ漁を延長し、最低だった漁獲量を下回ることは回避できた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 絶滅危惧種であり資源保護の観点からは正しくないが、業者は消費者に向けては必要だったという延長という措置は、問題を先送りにする採択となった。カツオ漁のあり方も、日本の主張と諸外国の主張が異なるなかでの課題解消への険しい道を模索しなければならないが、最終的にウナギのような状況になることは避けなければならない。 <p>【市場開放デーは第100回で多くの来場者でにぎわった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 市場に多くの人々が訪れたが、市場が活性化していくにはもっと魚屋に来てもらうことが必要。魚屋も高齢化が進むが二代目、三代目といった若い人は少なく、今は商いが量販店向けばかりになっている。 ➤ 高知中央市場は、普段は一般の方の入場には制限もあり、普段の買い物ができる場所になっていない。 <p>3. カツオ漁の現状について報告（明神好和様、松下様、中田様、明神賢一郎様）</p> <p>報告頂いた内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 2月度、今年はい体的に出航が早い傾向にあった。漁場が遠く、エサの仕入れに日数がかかるといったことで前年よりも効率は悪くなっている。漁獲量は前年より多かったが、例年より南下したことで遠方になりそれだけ鮮度も落ち、単価も下がった。 3月は全国的にカツオが獲れない状況が続いた月だったが、トンボ（ビンナガマグロ）の漁獲が多かったことで助けられた。南方の漁獲が不漁だったため、大多数の船が近場でトンボを拾っていた。 4月は三宅島周辺の近場でカツオ漁が多くあり、今日釣って明日水揚げといったピストン航海を行っており、2、3月のマイナスを取り戻そうと奮闘している。普段とは状況が違っている。 			

- ・ 関東周辺でのエサ不足が深刻となっており、千葉の勝浦で水揚げした後に佐賀町までエサを取りに戻っている。佐賀のエサも九州からの買いまわしでなんとか確保しており（2010年黒潮町佐賀に生餌拠点を設置）、次のエサをどうしたらいいかというような状況になっている。エサとなるカタクチイワシは普段ならば、獲れてから慣らすために10日～2週間ぐらい慣らす期間があるのだが、今はそれも行えずに獲れたものをすぐに船に入れ、次の日には使っている。毎年、どこかのタイミングでエサ不足はあるのだが、今年は館山で一ヶ月間全く獲れないといった状況はこれまでも初めてのことであり、古い漁師さんも聞いたことがないようなことになっている。相模湾のほうは獲れているが、東京湾の中の水温が低いようでエサが獲れていない
- ・ 小笠原諸島の西ノ島が昨年噴火したが、その西にあった漁場が全く釣れなくなったため、今年はすごく南方と近くの漁場の間が全く無かった。トンボと三宅島が無かったらと考えるとぞっとする。
- ・ 各県によって漁場が違っており、高知県は関東近辺で操業することが多く、宮崎は九州沖で操業してから関東に移っていくのだが、今年は宮崎沖が不漁ため、30～40隻が最初から関東に来ていることもあり、勝浦での水揚げも増え、関東東でのエサが不足してしまっているのではないかと考えられる。
- ・ 高知沖ではブイについているところの漁は釣れている。毎日それをピストンで釣るため高知にはエサがなくなってしまっているようで、愛媛の深浦にエサを求めて行っている。ただ深浦は水揚げをしないとエサを分けてくれないため、高知には船が集まって来にくくなっている。高知前は7-8キロの大きいサイズと小さいカツオで間の3-4キロサイズが揚がっていない。

質問・意見ほか

- ・ 久礼のカツオが1-2キロでまるまる肥えていると話を聞いたがそれはどういった状態だと思われるか？
 - ⇒土佐湾ではシラスがよく獲れていたが、それをエサに食べて肥えたようだ。
 - ⇒カツオは南方から来ており、普通なら南方から来たカツオを獲るのだが、今年は小笠原あたりの漁がなく、三宅島あたりで獲れているのは、西から来たカツオか去年の残っているカツオで、俗に言う上り鰹とは違っているのではないだろうかと言われている。
- ・ 普段何気なく食べているカツオが、いつどこでどうやって獲れ、どうやって運ばれ、今ここにあるのか、何かそういった情報をきちんと伝えていくことが食育にもつながり、カツオへの理解を深めることにも繋がり、その価値を知ってもらうことになるという好循環になるのではないだろうか。
 - ⇒出漁して消費者の口に入るまでには様々な仕事、工程、場面があるが、そのひとつひとつの要素や場面について、現状を知ってもらうこと、そこに関わっている人たちの思いを知ってもらうこと、それらがひとまとまりになって描かれ、発信されていくことことで伝えていければ、さらにいいものになっていくだろう。
 - ⇒昨年の高知新聞記事「カツオと生きていく」で様々な工程、仕事、思いが紹介されており近いものと感じる。
 - ⇒カツオ県民会議のブログでもそれぞれの思いや現状をまとめたものが発信されているので参考にできる。

今回のような情報を戻りカツオの頃に改めて情報共有いただければお願いするものとする。

4. 食育についての取り組みについて検討について報告

前回は食育に関する視点としてこういった情報があるのではないだろうか？というものを箇条書きで説明し、各位の意見をくみ上げた。今回は、カツオについての現状と情報を広く知ってもらうために何が必要かということを事務局でまとめたタタキ台の資料としてまとめたものを参考にしながら情報を交換した。

(各意見)

- ・ 学術的な分類、歴史、カツオ漁、流通、販売、食べること、世界的にみた現状とカテゴリがあると思われるが、それぞれ各メンバーが持っている得意なところの情報を集約させて、そこから小学校に持っていくならばどういった形がいいかといったことを模索していきたい。

- ・ 食文化分科会とも連携をとっていきたい。
- ・ カテゴリごとに、もっとこうしたほうがいいのか、こういった情報を付け加えてみてはどうだろうかとか、さらに各メンバーから情報や声を頂きたいので、事務局よりそのアンケートを送付させていただく。
- ・ 当会のなかで今回検討している「食育」に関する検討がどういった目標なのかという質問を頂戴した。カツオのことをきちんと知ってもらうためにも情報を集約しながら均すことで、誰でも見れて使える情報館のような存在が整備できないだろうかと考えている。今は小学校で調理や食事を兼ねた勉強会が行われたりしているが、そこで教えられている情報や内容はそれぞれの当事者任せになっている。カツオとともに生きているといっても過言でない高知においては、カツオ指導要領のようなものがあり、そこから必要な情報を小学校の勉強会で使ってもらえないとか、漁業の現状の課題といった研究をしたければそこにある情報を参考にしてもらえればいい、といったことを考えている。
- ・ 魚や食育となると、栄養学な視点もあるが、民俗学な情報も織り交ぜて仕上げていきたい。
- ・ ウナギの状況をカツオの置き換えたときにどうなるかということ了他県よりも深く考え、そうならないための行動ができていくためにも知ることを推し進めていくが必要だと考える。
- ・ 高知県漁協の婦人部による普及活動や料理教室のような活動が部分的に行われている。宿毛や大月のほうでも行われ、高知市内の小学校や高校でも行われている。高知県が窓口となっているものもあるようで、共有できる情報などがあれば情報提供をお願いしたい。

今回の会議で出たカツオの食育、知育に関して、こういった情報があつたほうがいいのか、これを考えるべきだ、などの声や意見を頂きたくアンケートを送付させていただく。

5. 情報発信分科会 西野様より報告（高知城歴史博物館との取り組み他）

- ・ 高知城歴史博物館で市民向けの勉強会として、カツオに関する情報発信が行われることが決定。予定については別紙参照とするが、消費漁業分科会からの選出で参加を行う予定である。
- ・ 今回の講座の内容は県民会議に提供するというので博物館の合意は取れており、日本遺産を申請していくための実践の場にもなっていく。そのためにもより多くの方に参加いただきたい。学生等にも勉強の機会として紹介頂きたい。
- ・ タトゥーシールが完成。難しく考えずに広く使ってもらい、若い世代にも興味を持ってもらえるように利用する。まずは中土佐町のカツオ祭りで一気に広げていく予定である。

6. 他

- ・ 旭食品様の6月開催の見本市でカツオ県民会議の動きを知ってもらえるように、K+も配布し、協賛いただける企業がないかを探り、仲間を広げられるような取り組みを行いたいと考えているとの報告があった。
- ・ K+の鯉特集号に関する協賛金の協力のお願いが高知広告センターよりあった。

7. 次回予定

- ・ 次回については6月開催で検討するが、高知城歴史博物館の講座担当が6月30日に行われるため、各員への負担とそちらへの参加をお願いしたいため、消費・漁業分科会の開催については座長、副座長で協議を行う。

（仮予定：2018年7月初旬） サニーマート本社会議室）

以 上